MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

プレスリリース　　2026年11月16日
国境なき医師団（MSF）

流行宣言から半年、いまだ制御できないコンゴのエボラ危機――死者 5000 人超、医療施設でも感染拡大

コンゴ民主共和国（以下、コンゴ）でエボラ病（エボラ出血熱）の流行が宣言されてから半年が経過した。だが、過去 2 番目の規模となった今回の流行をいまだに制御できていないと国境なき医師団（MSF）は警告する。

対策には多くの資金や人員、物資が投入されているものの、患者や最前線で対応する人びと、地域社会には必要な支援が十分に届いていない。

MSF は、コンゴ政府と国連機関に対し、既に確保された資金や人員、物資が現場で効果的に活用されるよう徹底を促すとともに、最も支援を必要とする場所で関係機関が連携して効果的に活動するため、緊急の行動をとるよう訴える。

巨額の資金、機能しない対策

「対策に巨額の資金が投じられているのに、最前線で対応する多くの人びとは必要な物資や報酬を得られていません」
MSF インターナショナル会長のジャビド・アブデルモネイム医師はこう指摘する。

国際社会から数億米ドル（数百億円相当）に上る資金が拠出されたにもかかわらず、対策の根幹をなす活動にはいまも重大な不備が残る。これが感染拡大の抑制と救命活動を妨げている。

「現地当局による対策が各地で機能していない実態を目の当たりにし、MSF のチームは言葉を失うことが少なくありません。対応開始から半年がたった今もこのような状況が続いていることは、到底容認できません」とアブデルモネイム医師は述べる。

現場で起きている問題は多岐にわたる。

対応に当たる現地の職員は研修を受けておらず、報酬も支払われず、ストライキに入ることもある。車両や救急車には燃料がない。感染状況を調べるチームは書類上存在するものの、現場では活動していない。

また、地域で活動する職員には、感染が疑われる人の情報を伝えるための電話やデータ通信の手段がない。医療従事者も、感染が疑われる患者に対応するための物資や技術的な支援を得られていない。

特に深刻なのが、エボラ対策の柱となる、感染状況を把握・追跡する仕組みが十分に機能していないことだ。

感染状況の追跡・把握には、公式には資金や人員などが割り当てられている。しかし、十分に調査されていない地域や、全く手が付けられていない地域がある。過去 1 カ月に報告されたエボラ関連の死者のうち、3 分の 2 近くは治療センターではなく地域の中で亡くなっていた。

MSF が集めたデータからも問題の深刻さが分かる。アブデルモネイム医師は、対応開始以降にイトゥリ州で MSF のチームが治療したエボラ患者のうち、感染者と接触していたことが既に把握されていた人はわずか 9%だったと説明する。

「地域の人びとの不信感が調査を難しくしていることは確かです。それでも、監督体制や人員配置を見直し、現場の活動に必要な支援を早急に強化しなければなりません」とアブデルモネイム医師は話す。

一部地域に偏る対応、医療施設で感染も

MSF は、一部の地域に対応が集中する一方、対策が急務となっている他の感染多発地域が取り残されている状況を懸念している。

例えば北キブ州では、流行の規模に見合う対応体制の立ち上げが遅すぎる。一方、上ウエレ州は深刻なまでに対応から取り残されている。

両州では、対応チームに必要な人員や物資などが十分に行き渡っていない。医療施設にも、十分な滅菌体制や水、消毒用の塩素、患者を振り分けるトリアージの仕組みがない。その結果、感染を抑えるはずの医療施設の一部が、かえって新たな感染が広がる場となってしまっている。

北キブ州のベニ保健区域では、エボラ患者の 4 分の 3 近くが医療施設で感染していた。対応開始から半年がたった今も、医療施設や人道援助団体では個人防護具（PPE）が不足し、MSF への提供要請が相次いでいる。それほど現場の需要は大きく、MSF も多くの要請に応じきれていない。

アブデルモネイム医師は、最初に感染が集中した地域以外では、対応できる人員があまりにも少ないと指摘する。民間の診療所や病院、薬局のほか、地域に根付いた伝統療法をする人びとも対策計画にほとんど組み込まれていないという。

「人びとが具合を悪くしたとき、最初に頼るのはこうした診療所や治療者であることが多く、そこで感染するケースも後を絶ちません。こうした現実に沿った対策を講じなければ、今後何年にもわたり、流行への対応で後手に回り続けることになりかねません」とアブデルモネイム医師は話す。

MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

約束を、現場での具体的な改善へ

この半年間で、コンゴ当局と国際的な協力機関は具体的な成果も上げてきた。 診断体制は強化され、隔離・治療施設も拡充された。地域の人びとへの働きかけも広がり、有効な治療法の確立やワクチン開発に向けた試験も始まっている。

それでも、エボラ対策には深刻な不備が残る。問題は広く認識されているにもかかわらず、その大半が解消されていない。

コンゴ当局は、対策に投じられた資源の配分と使途を明らかにするため、関係する各組織の活動への監督を強化し、透明性を高める措置を発表した。今こそ、こうした約束や発表を現場での具体的な改善につなげなければならない。

対応は急を要する。エボラ患者は 1 万 1000 人を超え、死者は 5000 人を上回った。コンゴ政府と国連機関は、既に確保された資金や人員、物資が現場で効果的に活用されるようにしなければならない。

そのためには、活動の監督と説明責任を強化するとともに、対応に当たる職員が適切な研修を受け、報酬を支払われ、必要な装備と支援を得られるようにする必要がある。また、支援を最も必要とする地域に重点的に配分しなければならない。

アブデルモネイム医師はこう強調する。
「これは、単に対策を効果的に進められるかどうかという問題ではありません。既にあまりにも大きな犠牲を払ってきた地域の人びとの信頼を、取り戻せるかどうかも問われているのです」

以上

本件に関するお問い合わせ先：
特定非営利活動法人　国境なき医師団日本　広報担当：高橋哲子
携帯：090-5401-5176
E-mail: press@tokyo.msf.org　https://www.msf.or.jp
メディア向け X（旧ツイッター）アカウント：@MSFJ_Press